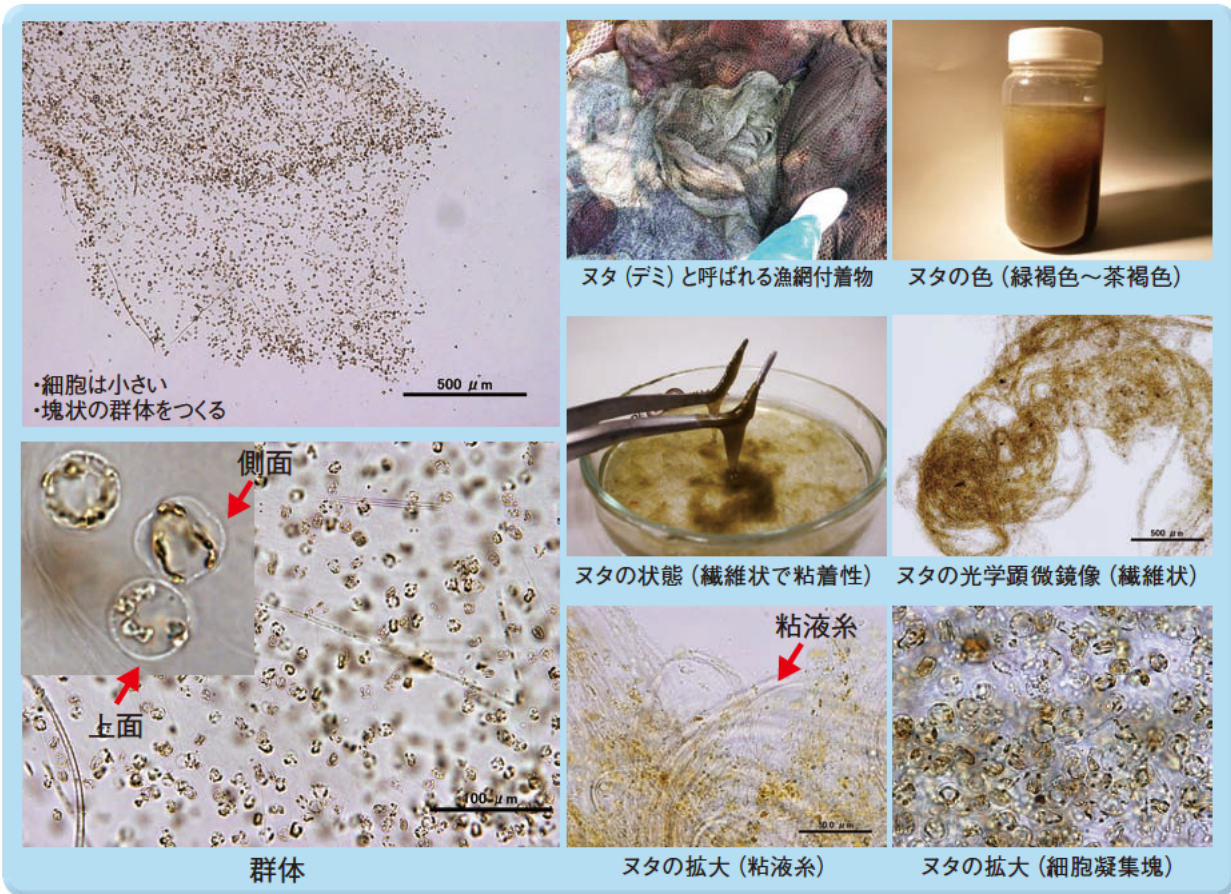


# タラシオシーラ ディポロシクルス(珪藻)

(*Thalassiosira diporocyclus*)



**大きさ** 直径12~24 $\mu$ m

**形態** 色は黄緑色~黄褐色。細胞は丸みを帯びた円柱形で、高さは直径と同程度。群体は塊状で、球形~楕円形、あるいはそれらが崩れた不定形となる。群体中の細胞は、お互いが粘液糸でつながっている。類似種にタラシオシーラ マーラ(*Thalassiosira mala*)があるが、マーラは細胞が小さく(直径3~10 $\mu$ m)、高さが直径の約1/2と横長である点で区別できる。

**動き** なし。

**漁業への影響**：瀬戸内海でノリの色落ち被害を引き起こしたとの報告がある。また、粘液糸でつながれた強固な細胞凝集塊をつくるため、大量発生すると、俗にヌタ、あるいはデミと呼ばれる繊維状で粘着性の漁網付着物の原因になると考えられる。魚介類への直接的な悪影響は報告されていない。

**漁業被害**：平成23年5月に熊野灘で操業していた巻き網に本種が原因と推定されるヌタが付着し、網が重くなるなどの障害が発生した。ヌタの発生範囲は熊野灘北部~南部と広範囲であった。海面からは赤潮は観測されなかったが、水深20m付近にクロロフィルのピークが認められたことから、広範囲に中層赤潮を形成していたことが推測される。平成24年4月にも熊野灘沿岸で本種の大量発生が確認された。

**発生海域**：熊野灘沿岸

**発生時期**：4~5月頃(ただし、周年発生する可能性あり)